

井原市公共交通会議（平成 25 年度第 2 回） 会議概要

と き 平成 25 年 7 月 1 日（月）

15 : 00～16:30

ところ 市役所 4 階 大会議室 1・2・3

1. 開 会

1) 会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 25 名中 実出席 23 名 代理出席 1 名

2) 三宅会長あいさつ

3) 委員の異動

- ・ 平賀哲二委員（中国運輸局岡山運輸支局）
- ・ 宮原茂委員（井原鉄道株式会社）

4) 前回の会議概要説明（事務局）

2. 報 告

市内全バス路線利用状況調査の実施結果（民間の路線バス）の概要について

・ 事務局説明

（三宅会長） 調査結果をみると、バスで通学する児童・生徒そのものの減少や学校行事の影響を差し引いても、利用者は減少傾向にあるということである。ただ、前回（H24 年 11 月調査）との比較という意味では、前回と今回（H25 年 5 月調査）とは調査年度が異なり、調査対象となるバス通学の児童・生徒数そのものに違いがあるため、路線・ダイヤの見直しによる効果や影響が曖昧になっているように感じる。例えば、同一年度に見直しの前後 1 回ずつ調査を行えば、見直しによる純粋な効果を定量的に把握することができるのではないか。

（委 員） 同じ意見であるが、どの路線についても、利用者数の減少理由として高校生や小学生の減少が挙げられているので、同じ年度に同じ利用者を対象に調査を行った方が、効果がはっきりすると思う。

（委 員） 井原～福山線について、井原鉄道の駅に近い停留所の利用者の減少率が高いということだが、昨年 11 月のバスの大幅減便による井原鉄道への影響は把握しているか。今後、議論を深めていく中で、バスの利用者が井原鉄道に転換したのか、それともバスと鉄道を含めた公共交通の利用者そのものが減っているのかは大切な要素だと思うので、ぜひ調査をお願いしたい。

（三宅会長） 井原鉄道の利用状況については、事務局もさることながら、できれば、井原鉄道にもご協力をいただきたいと思うが、いかがか。

（委 員） H24 年度の井原鉄道の利用者数が 100 万人を回復した要因の一つとして、井原～福山線の減便による影響があったことは認識しているが、定量的な把握はしていない。ただ、今年の秋には乗降調査を実施する予定であり、その結果をもって、ある程度把握できるものと考えている。

（委 員） 調査結果のまとめとして、「利用拡大に向けた取組を行っても効果が見られない路線や、利用者数が極端に少ない路線については、減便や廃止も含めた検討が必要」とある。実際にこの通りだとは思いますが、今後、高齢者が増加することを鑑みると、一律な減便や廃止ではなく、1 人でも多くの方に乗ってもらえる方法を、

様々な角度から考えていただきたい。

- (事務局) 直ちに減便や廃止をするのではなく、一定の基準を作成した上で検討し判断する必要があると考えている。
- (三宅会長) 乗らない路線を単純に止めてしまうのではなく、公共交通全体として進化させていきたいと考えている。利用者の少ない路線を、ずっと同じ便数や時刻のまま運行し続けるよりは、その地区の移動ニーズに応じた代替手段を考えたい。
- (委員) 井原～笠岡線と井原～福山線について、前回の調査時点では、従前の利用者が減便にもかかわらず我慢して利用していた状況があったと思うが、現在は、別の交通手段に変えたり、目的地を変えたりといった実際の行動に表れている時期ではないかと思う。したがって、便数が減った時間帯における前回と今回の利用状況を比較分析することで、減便により利用者はどのような行動をとったのか、減便にもかかわらず利用している利用者に対して、最低どの程度の運行間隔・便数が必要なかを検討する材料になると思う。調査結果の詳細な分析にあたっては、こうした視点からも取り組んでほしい。
- (三宅会長) 限界があるとは思うが、路線ごとの特徴を踏まえつつ、利用者の意向はどこにあるのかを探るため、できるだけ細かな分析をお願いしたい。
- (委員) バス通学の高校生が減少傾向にあることに関して、高梁市では「高校生バス通学費補助金制度」に基づく定期券購入費用の半額補助が行われているが、井原市ではどうか。
- (事務局) 現在、高校生に対する運賃助成制度は導入していないが、今後検討する余地はあるものと考えている。
- (委員) バスに乗っていると、市民病院の前後では一定の利用があるが、その他の区間では利用者が少ない。利用者の少ない便や区間を止めて、利用者の多いところに回してはどうかと思うが、どうか。
- (事務局) ご指摘のように1便あたりの利用者が非常に少ない路線もあるので、今後の見直しにおいて検討したい。
- (三宅会長) 定期的な利用状況調査やアンケート調査等を積み重ねて、今後も、より利用しやすい路線に向けた改善を続けていきたい。

3. 協 議

予約型乗合タクシーの乗降場所の追加（案）について

・ 事務局説明

- (三宅会長) 委員のみなさんからご質問等はないか。
- (委員) 乗降場所の増加は良いことだが、最近、高齢者の事故が非常に多くなっている。運行事業者のみなさんには、高齢者が予約型乗合タクシーを降りる際に「気をつけて」等の声かけをしていただければと思う。
- (三宅会長) 運行事業者のみなさんには、ぜひともご協力をお願いしたい。
- (委員) 地区の自治会等を活用して、できるだけ多くの人に、今回の見直し内容を周知してほしい。
- (事務局) 周知方法としては、自治会に出向いての説明や、現在利用されている方へのチラシ配布、「公共交通かわら版」への掲載等を考えている。
- (三宅会長) 広く知っていただくことが重要だと思うので、十分に取り組んでほしい。

- (委員) 乗降場所の追加に伴い、目的地側の運行経路がこれまでのように一本線ではなくなるが、複数の乗降場所を経由する際の順路は決まっているのか。
- (事務局) 運行の都度、その時の利用者が希望する乗降場所に応じた最適なルートをとって運行している。
- (委員) 回数券の導入は考えていないか。最近、運転免許の返納が奨励されているが、免許を返納する一方で回数券を販売すれば、公共交通の利用にもつながるのでは。利用の呼びかけや周知だけではなくて、例えば回数券のような、ちょっとした発想が必要ではと感じる。
- (事務局) 予約型乗合タクシーにおいては、現時点で予定はないが、様々なご意見を聞きながら、必要に応じて検討したい。
- (三宅会長) 高齢者の運転免許返納制度と組み合わせた運賃・料金の設定はできないかということだが、井原鉄道のように、先駆け取り組んでいる事業者もある。先ほどの備北バスからの提案にもあったように、利用者の声に基づく提案には、今後、真摯に取り組んでいきたいと思う。
- (三宅会長) 他に、委員のみなさんからご質問等はないか。
ご質問等がなければ、原案のとおり承認してよいか。
- 委員拍手（協議事項承認）

4. 閉 会

仁科副会長あいさつ

以上